

総合 題材「私たちの町 信濃町のこれから」 学習指導案

指定校 2 年次 信濃町立信濃小中学校 授業者 6 年 1 組 中里 一也

1 題材の持つ価値

「先生、川に遊びに行きたい!」「暖くなったら行こうよ」私が初めて赴任した4月、子どもたちから何回言われたらう。私にそう訴えるその傍らで去年捕まえたという魚の世話や観察に余念のない子どもたち。話を聞くと、5年生のときに総合の時間に川で遊んだり野尻湖で調査活動を行ったりして、本当に楽しかったという。子どもたちを惹きつけてやまない”川”に少なからず興味を持った私がいた。と言うのも、以前私が在籍した山の中の小さな学校の目の前には清流が流れ、夏の日には子どもたちと思うままに遊んだ経験があったからだ。ひたすら水の流れに身を任せる子、力を合わせて石を集めてきてダムを作る子、網を片手に生き物を追う子…。そんな中で私は子どもと一緒に遊んだり、化石が産出するというその河原で化石を探したり(実際に発見し新聞に載ったり卒業時化石館に寄贈したりという後日談までついて)、地域の郷土史に記されただけの誰も見たことのない白花タンポポを探したりと、本当に楽しい時間を過ごし、その後廃校となった赤い屋根の小さな学校を、今でもふと思い出すのである。

4月に偶然一緒に生活することになったこの子たちも、場所は違えど”川”というフィールドに、かつての私のクラスの子どもや私と同じ面白さ(価値)を感じていることに不思議な縁を感じるとともに、子供を惹きつけてやまない自然には時代や場所を越えた普遍的な大きな学びの意味があるのだらうと、改めて痛感させられた。

地元の川で、今まで一緒に育ってきた友達と一緒に思い切り遊ぶということ。それは今、ここで、このメンバーでしかできないことである。時間の許す限り川に通い、1学期中に3回川へ遊びに出かけ、各々自由にたつぷりと川で遊んだ。計画では夏休み明けに行く予定だったが既に川の水温が低く、断念せざるを得なかった。残念!恐るべし信濃町。

文化祭での学習発表は話し合うまでもなく「鳥居川の魅力」に決定。ただ、この題名では何の魅力もないので見ている人に少しでも子どもたちが感じている魅力が伝わるように「私たちはなぜ鳥居川に行きたくなるのだらう」と題名を変更し、当日を迎えた。また同時にクラス展示では魅力を伝えるパンフレットを作成し、その製作過程と共に展示した。準備の段階から内容や台詞などは自分たちで決め教師は交通整理をするだけで終わったこと、発表の際のフロアからの反応からも、子どもたちがいかに鳥居川の魅力を強く感じているか、そして受け取り手側にも共感しやすい魅力があるということからも、子どもたちのここまでの活動に手ごたえを感じた。

文化祭で発表することで子どもたちは、自分の感じる鳥居川の魅力を言葉や文字に表し感じなおすことができた。しかしそれはあくまで子どもの内で感じている、いわば閉じられた主観的な価値を文字化した段階である。私は、次の段階として子どもたちのこの活動が社会的にどのような意味や価値を持つのか学んでいく(自覚していく)こと、つまり開かれた客観的な価値を見出し社会とつながっていることを感じるのが、信濃町に生まれ育ったことを自覚し誇りを持ち、郷土を愛する大人に育っていくことにつながるだらうと考え、題材「私の生きる町 信濃町のこれから」を展開していくこととした。

2 単元展開

時間	学習内容	授業で使った「新聞記事」、【使用資料】
1 時 間 目	・国語教科書「未来がよりよくあるために」を読み、これから考えること＝学習問題「信濃町のよりよい未来とはどのようなものなのだらう」を設定 ・未来の信濃町がどうなっていてほしいか考えるにあたり、信濃町の【課題】を新聞記事からとらえる。 ☆新聞記事から読み取る信濃町の【課題】 ・人口減少(少子高齢化) ・観光客減少 ・消滅の危機 ・次時の学習問題を設定して終わる。	「進む少子化・人口減少」 「市町村の消滅県内8割危惧」 「信濃町の人口減少止めたい」 「基幹の観光振興模索」 (本資料ではページ数の関係で割愛)
	学習問題：信濃町のより良い未来とは、どのようなものなのだらう	

2 時 間 目	・前時、児童思い描いた信濃町の未来の中であってほしい姿を【魅力】と紹介。 ・児童の感じる魅力を確認後、大人はその魅力をどう感じているのか、新聞記事からとらえる。 ☆信濃町の多くの【魅力】があることを確認。それなのに、何故観光客が減少しているのかという意見を児童の疑問を取り上げ、【課題】を解決するための【魅力】は何か考えることを確認して終わる。	「灯籠流し花火大会」 「野尻湖の名ヨット化粧直しで再出発」 「いかだ体験響く掛け声」 「音楽とカヤック楽しむ催し」「自然観察やカヌー体験」 「野尻湖トライアスロン」 「両陛下再生の森で憩う」 (本資料ではページ数の関係で割愛)
	学習問題：信濃町の課題を解決する信濃町の魅力は何だろう	
3 時 間 目	・信濃町の【課題】を解決するための信濃町の【魅力】は何か考える。 ・その中で、児童が大きな魅力と考える野尻湖の魅力を高める活動をする大人の記事を読む。 ・野尻湖を美しく保とうとしている人の姿と釣り客が多い面を取り上げ、町の観光資源の大きな柱になっていることを知る。 ・バス釣りで激増したこと県内外から釣り客が訪れることを読み取る。 ☆信濃町には数多くの魅力があるが、 信濃町≒野尻湖≒バス釣りの側面が強いことを押える	「環境美化 思いは湖底へ」 【野尻湖における遊漁料収入の推移】 【野尻湖を訪れるバス釣り客の出発地】 (本資料ではページ数の関係で割愛)
	学習問題：野尻湖の魅力の一つバス釣りはどのような様子なのだろう	
4 時 間 目	・野尻湖漁業組合 HP を紹介しその中で「野尻湖からブラックバス、ブルーギルの生きたままでの持ち出しを禁じます」と大きく明示する理由を考えるの記事から考える。 ☆既習学習(5年次クリーンラリー)より、ブラックバスの問題点(日本にいる生物に被害を与える)とあわせてどう思うか感想を持つ。 ・長野県作成のブラックバス再放流禁止のポスターを提示。何故このように呼びかけているのか考える。	【野尻湖漁業組合HP】 「魚の4割コクチバス」 (本資料ではページ数の関係で割愛)
	学習問題：ブラックバス(外来生物)の問題点は何だろう	
5 時 間 目	・新聞や長野県のHPではブラックバスの問題点をどう伝えているか読み取る。 ☆長野県で野尻湖以外ではブラックバス、ブルーギルの再放流が禁止されていること、この2種が“侵略的”外来種に指定され大きな問題になっていることを知る。 ☆野尻湖では大丈夫なものが、それ以外の地域ではだめになっているという現状を知る。	「再放流禁止のポスター」 「外来魚増えて大丈夫？」 【長野県水産試験場HP】 (本資料ではページ数の関係で割愛)

6時間目	学習問題：私たちはブラックバス（外来生物）とどう関わっていけばよいのだろう	
	・外来生物の拡大の問題と対策（外来生物の除去と、従来の環境保全）を知る。 ☆信濃町のよりよい未来とは、今の信濃町のように外来生物と共存するのか、他地域のように除去することなのか、どちらが自分の意見に近いのか自分の考えを、今までの新聞記事を根拠に持つ（学習問題の設定）。	「外来植物除去 戸隠の森守る」 「薄川の外来種 一緒に駆除」 「特定外来生物は「駆除を」」 「佐久の国道沿い 外来種駆除作業」 「フランスギク霧が峰で増加」 （本資料ではページ数の関係で割愛）
学習問題：信濃町のよりよい未来とは外来生物と共存することなのか、除去することなのだろうか		
7時間目 (本時)	・信濃町のよりよい未来とは「外来生物」と共存することなのか「除去」することなのか新聞記事をもとに考える。 ☆答えは一つではなく、考え続けるという大切さを感じる。	「保護と駆除 その差は…」
8時間目	学習問題：信濃町のより良い未来とは、どのようなものなのだろう	
	・単元の学習問題について、自分の考えを今までの新聞記事を根拠にしながら書く。	今までの新聞記事

※新聞記事は有料サイト「信毎データベース」から検索と印刷。

※1学期から斜面、信毎学習シートで継続して新聞の読み方を学習。

※題材直前、信毎の出前授業で新聞の読み方を学習。

※学習カードは毎時間、信毎学習シートを似せた形式で自作。

※資料の新聞記事は、最初は見出しとグラフだけに絞り、次第に分量を増やしていく。

3 本時の学習計画 8時間中の第7時

(1) 学習のねらい

信濃町のよりよい未来とは外来生物と共存することなのか除去することなのか考え始めた子どもたちが、在来生物の外来生物の除去作業について書かれた新聞記事を読み主催した活動家のおもいを考えることを通して、どちらが正しいか答えはひとつではなくどうあるべきか一生かけて考えていく必要性を感じることができる。

前時：県内で行われる外来生物の除去作業の新聞記事を読み、信濃町のよりよい未来とは外来生物と共生することか除去することか根拠を添えて考えた。

次時：自分の考える信濃町のよりよい未来についての意見文を、新聞記事を根拠に書く。

(2) 学習の展開

展開	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導と評価
はじめ	1 学習問題を確認し、自分の考えを出し合う。	学習問題 信濃町のよりよい未来とは外来生物と共存することなのか、除去することなのだろうか - 信濃町はブラックバスを目的に釣りに来る観光客が多いから共存するのがいいと思う。 - 信濃町は少子高齢化が進んでいるし観光客も減って消滅の危機もあるから共存していく。 - ブラックバスは他の魚を食べてしまうから、いないほうがいい。 - 駆除や共存ばかりじゃなくて、両方のうまい方法を生かしたやり方って何かないかな。 ○自分のおじいちゃんもいろいろな魚がいなくなるから、バスはいいないほうがいいって言った。	10'	○学習問題について、友のさまざまな意見を聞くことで信濃町のよりよい未来についてより問題意識を深めるようにする。 ・今まで学習した事実（新聞記事）からそう思ったのか問い返し根拠を持って語れるようにする。 ・共生、除去の両方の意見を取り上げる。 ・駆除や共存、両方の考えに目を向けた考えを取り上げる。 ・保護者の方の考えにも目を向けた未来の考えを取り上げ大人はどう考えているのか問いかけ学習活動2に入る。

【資料①】 授業（本時）で使用した新聞記事

（他の授業の記事はページ数の関係で割愛）

※児童には、答えに直結する見出しは感想などを削除して配布

長野の飯綱高原で外来植物の抜き取り作業



キシヨウフかどうか確かめて参加者に伝える影山さん（右）と白

「保護」と「駆除」 その差は…

長野市飯綱高原にある大谷地^{（注）}。初夏には、リュウキンカの黄色い花がじゅうたんのように広がることで知られるが、近年、アヤメ科の外来植物キシヨウフが繁殖し、住民らでつくる「飯綱高原を美しくする会」が毎年抜き取り作業をしている。従来の生態系に影響しかねないためだ。守るべき花、取り除くべき花、そこにどんな差があるのか「駆除」に参加して考えた。（藤木 郁弥）

2012年から参加者を募 飯綱高原ボランティアガイド
つて抜き取りをしている同 会の影山真夫さん（77）らに教
会。作業開始の今日（1日）、県 わり、まずは抜く予定のキシ
自然観察インストラクターで ヨウフにスプレーで目印を付

「人が自然を評価 妥当か」答え出ず



守るべき花

大谷地高原のリュウキンカ



取り除くべき花

大谷地高原に咲いていた
キシヨウフ（環境省戸隠
自然保護事務所提供）

ける作業に加わった。

現場 トライ

キシヨウフ 欧州などの原産。明治時代に観賞用として国内に持ち込まれたとされ、各地の湖沼などに広がった。葉や茎は高さ1メートルになり、6月ごろに黄色い花を咲かせる。環境省は、生態系に被害を及ぼす恐れがあるとしてリスト化している外来動植物49種のうち、国内に定着し甚大な被害を与えると予想される「重点対策外来種」に分類している。県内でも、田んぼのあぜなどに生えて親しまれている一方、志賀高原などでは刈り取りの対象となっている。

もらったが、難しい。

辺りに生えているヨウフやヒメオウギアヤメとも見分けにくい。結局、色を付けられたのは数本だった。

翌日は雨。それでも30人が集まり、作業が始まった。記者もスコップでキシヨウフを取った。周りをみると、男性の参加者たちが全身の力を込めてスコップを突き立てている。「根には手がある」と隣の人が教えてくれた。なるほど、他の人が抜いたキシヨウフには球根のような塊がある。抜いたつもりだったが、根を残していたようだ。

今度こそはと再び掘ったが、根が網の目のように張り巡らされ、体重40kgの自分ではひくもしない。参加者全体でこの日は1つほど抜き取ったが、記者は1株も掘り出せなかった。

「黄色いアヤメを見に行きたい」。飯綱高原観光協会にそんな電話が寄せられるようになったのは6年ほど前という。影山さんたちが花の種類を調べると、環境省が防除などの対策を求めるキシヨウフだと分かった。当時は高原一面にキシヨウフの花が目立っていたという。それまでさほど気に留めていなかったが、生態系に悪影響があるかもしれない外来種で観光を成り立

たせていいのかと、影山さんが抜き取りを提案した。

これまでに高原の南側約100ヘクタールでキシヨウフを9割は除去したという。抜いた跡には草原の近くで見られるカササギ（イネ目）が生えるようになり「いずれはリュウキンカももつと増えてくれればうれしい」と影山さんは話す。

一方、リュウキンカと同様に、「キシヨウフもきれいな花です」と話すのは、抜き取り作業に参加している飯綱高原ボランティアガイド会の門田美代子さん（71）＝飯山市。どこか複雑な気持ちとしつつ、在来種を守るために「割り切っている」と語る。

確かに、根があれば頑強に張っていれば、他の植物の生育を妨げかねないことは実感できた。その高原にしかない多様な植生が続いてほしいとも思う。ただ、キシヨウフも生き残るために根を張っている。高原では枯れたヨシなどが堆積して乾燥化が進み、ヤナギなどが増える変化も起きているといわれている。

自然の変化に人間が評価を加えるのは妥当なのか、それとも…。影山さんどう思うのか聞くと、「自然の保全に答えはない。一生かけて考えていくものでしょう」との言葉。考え込んでしまった。

（月曜日に掲載します）

（2017年6月19日付 信濃毎日新聞）

【資料②】 第8時で書いた児童作文

20x2020x20

